

# 第4回日本胸部外科女性医師の会 定例会

---

## 活動報告書

---

富澤 康子（東京女子医科大学）

林田 恭子（草津総合病院）

齋藤 綾（東京大学）

2009/11/02 作成

#### 第4回 日本胸部外科女性医師の会

日時：2009年10月13日 朝6時30分～9時

場所：ヨコハマ グランドインターコンチネンタルホテル 30階 カールトン

参加者（世話人以外）：

四津良平先生（慶応義塾大学心臓外科）

富永隆治先生（九州大学医学部心臓外科）

浦中康子先生（横浜市立市民病院）

齋藤文美恵先生（松戸市立病院）

富井奉子先生（岡山大学）

山崎祥子先生（京都府立医大）

長尾久美子様・茂手木真佐美様・米森可愛様（エドワーズライフサイエンス）

寺井大輔様（テルモ株式会社）

以上10名

プログラム：

6：30～朝食会

7：30～ミニレクチャー（講師 東京女子医科大学 富澤康子先生）

「女性医師が臨床・教育・研究において活躍するための具体的な支援」

集会概要：

今年で胸部外科学会女性医師の会創立4年目を迎えました。四事良平先生のご配慮により、本年も日本胸部外科学会定期学術集会に併設し第4回定例会を開催することができました。

内容は、通常通り簡単な朝食会および本会の活動に関連するミニレクチャーにより構成されておりました。

[レクチャー要旨]

近年、医学部に占める女子学生の割合は増加の一途になるが、状況に併せた体制整備の遅延（保育対策の遅延・教授や各学会理事・評議員・学会誌編集委員への女性が占める割合が低いことなど）が浮き彫りになってきた。特に、胸部外科学会における女性の評議員・編集委員はゼロであり、活躍の場がまだ限られていることがうかがわれた。このような環境整備遅延の原因としては、行政の関わり方が希薄であること、女性医師の就労状況の正確な把握が諸理由より困難であることなどが挙げられていた。今後の改善策としては、現実には女性医師が直面している問題点を列挙し表在化することが大切であり、より具体的には①看護師だけではなく医師も同等に利用できる院内託児所の整備、②仕事時間の考慮（融通性）、③情報共有の場の提供・拡大（ホームページなどの斡旋）、④職場復帰への援

助、などに関する法の整備も含めた改善が列挙された。一方、論文執筆などの学術活動・研究費獲得などの業績を客観的に評価することで男性・女性医師それぞれの医学への貢献度を認識することも必要であることが示唆された。

上記講演後に、富永先生より「News letterなどを介し、実際に表に出て活動している人だけでなくより多くの女性医師の意見を引き出すことが大切なのは」とのご意見をいただきました。また、今後の女性評議員選出に関しては、女性医師の中である程度候補者を定めることよって、より効率的な女性評議員選びにつながるのではないかと御提案をいただきました。

その他にも、本会合を足の運びやすい日程にアレンジできると参加者も増えて良いのではないかとのご意見をいただきました。しかし、この会は発足してからまだ日が浅いこともあり胸部外科学会に併設して開催するためには日時を選択肢が非常に限られている現実もあります。現時点では何らかの形で集会などを含む活動を継続することが大切なのではないかと考えられました。

その他さまざまな会話から、今後の活動に関していろいろな課題を示唆されつつ集会を終了いたしました。

(文責 齋藤 綾)

参加者) アイウエオ順、敬称略

浦中 康子 (横浜市立市民病院)

齋藤 綾 (東京大学)

齋藤文美恵 (松戸市立病院)

寺井 大輔 (株式会社テルモ)

富井 泰子 (岡山大学)

富澤 泰子 (東京女子医科大学)

富永 隆治 (九州大学)

長尾久海子 (エドワーズライフサイエンス株式会社)

林田 恭子 (草津総合病院)

茂手木真佐美 (エドワーズライフサイエンス株式会社)

山崎 祥子 (京都府立医科大学)

四津 良平 (慶應義塾大学)

米森 可愛 (エドワーズライフサイエンス株式会社)